

辺野古通信

第80号 2022年10月20日

10/1 辺野古ブルーアクション(新宿駅南口)



9/12 知事選勝利翌日の官邸前緊急行動に80人



発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

沖縄県知事選三連勝！辺野古新基地は断念を！

■7/8 の安倍元首相の銃殺事件は全国を震撼とさせた。その前日、キャンプ・ハンセンに隣接する金武町伊芸区の民家玄関先で銃弾発見。軍事基地と隣り合わせの沖縄の現実を改めて浮かび上がらせた。米海兵隊は流弾の関与を否定したが、7/4-10 に基地内で実弾演習が通告されており、過去にも流弾で幼児や女性が負傷した事件も。捜査には常に日米地位協定の「壁」。その後重機関銃用と判明。米軍の流弾の可能性大(10/15 沖縄タイムス)。

■7/10 投開票の参議院選沖縄選挙区は、オール沖縄推薦の伊波洋一さんが勝利！

■8/2 のペロシ米下院議長の訪台強行は、米中の軍事緊張を一挙に高めた。ペロシ訪台に連動し自民党の右派国会議員が相次いで訪台して米国の中国封じ込めに加担し軍事挑発行為に一役買っている。この背後で琉球列島の戦場化を前提にした日米共同作戦計画が軍事演習を繰り返し具体化されつつある。琉球列島の島々から沸き起こる「ノーモア！沖縄戦」の声。

■9/5 普天間第二小の土壌を調査した市民団体が基準値の29倍のPFAS(有機フッ素化合物)が検出されたと発表。行政による詳細調査を要望した。9/15には県内6市町村の基地周辺住民の血中濃度を調査した市民団体が京大と連携し分析結果を報告。北谷で全国平均の3.1倍など高い値が検出された。9月県議会で、県が米軍基地周辺の調査に入ることを表明。基地由来の飲料水汚染が深刻になる中で汚染

源調査に非協力的な米軍と、それを黙認する政府・防衛省の姿勢は許し難い。

■9/11 投開票の沖縄県知事選挙はオール沖縄推薦の玉城デニー知事が、政権与党推薦の候補に65000票の差をつけ大勝利。2014年、2018年に続いて知事選3連勝。これまで辺野古の争点化を回避してきた政権与党候補が今回は初めて「辺野古容認」を正面から打ち出してきただけに大差の勝利は大きい。同日投開票の県議補選もオール沖縄推薦候補が勝利、県議会玉城県政与党が過半数議席を維持した。辺野古新基地建設は白紙撤回しかない！

■9/14 琉球人遺骨返還請求訴訟の控訴審が大阪高裁で始まった。盗掘した遺骨の返還を頑なに拒否する京大の植民地主義を問う裁判だ。第2回控訴審は12/1。

■9/20 土地調査規制法全面施行。パブコメに寄せられた約3000件に及ぶ疑問の声は黙殺された。狙いは軍事要塞化に対する琉球の島々の抵抗を封じ込めること。被害を受け続けてきた周辺住民が「加害者」として監視される。こんな不条理を許せばその先には沖縄戦の再現しかない。

■9/27 安倍国葬強行。安倍政治が残した負の遺産は何一つ解決していない！

■みなさんからのカンパは約20年間の累計3,518,818円(10/1現在)。ヘリ基地反対協等を通じ辺野古ゲート前や海上、安和の阻止行動等に役立っています。郵便口座 00210-0-2021 沖縄連続講座

「復帰」50年と沖縄・辺野古 11.25 オンライン講演会

- ◆日 時 2022年11月25日(金) 18時半
- ◆会 場 横浜市技能文化会館 8階 802号
- ◆オンライン講演 高里鈴代さん(オール沖縄会議・共同代表)
- ◆資料代 500円(学生無料)
- ◆主 催 島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会

防衛省の有識者会議からも費用対効果に疑問の声

9/4の琉球新報は、外交・安全保障政策の長期指針「国家安全保障戦略」など安保関連3文書の年末までの改定に向けて

政府が実施した有識者からの意見聴取で、「普天間飛行場の名護市辺野古移設」について費用対効果を疑問視する意見が上がっていたことを伝えている。記事によれば、防衛省が公表した有識者会議の「議論の要旨」のうち「防衛力強化・防衛関係費」の項目で、普天間飛行場移設を巡って「膨大な資金と長い年月のかかる事に力を入れることには疑問。時間と効果をもっと考えてほしい」と記されている。

確かに2018年12月の土砂投入から4年を経過しようというのに、いまだに投入された土砂は全体の10%足らず、軟弱地盤を抱える大浦湾側の埋め立ては工事着手の見通しさえ立たない。誰が見ても、辺野古新基地建設計画は破綻している。防衛省に忖度することしかない御用機関の有識者会議の中からも疑問が噴出して当然だろう。それでも毎日キャンプ・シユワブには工事車両が出入りし、土砂運搬船が往来し、陸でも海でも作業は続いている。工事が中断しない限り、工事を受注したゼネコンや建設関連業者に国税が注ぎ込まれ続けるという「辺野古利権」の構造的問題は以前から指摘されているが、それだけではない。

自衛隊も共同使用？ 辺野古弾薬庫の拡充整備

いま辺野古のメインゲートから北上した国道の周辺が新たなゲート建設のために無残に伐採されて景観が変貌し、雨が降ると赤土が流出していることが問題になっている。山城博治さんによれば、新たなゲートは自衛隊の弾薬庫建設と結びついている。

辺野古 陸自も常駐
自衛隊50年
海兵隊と極秘合意
日米一体化中核拠点に

弾薬庫は自衛隊も共同使用！ 辺野古新基地は日米一体化の中核拠点

辺野古費用対効果に疑問 安保政策の有識者指摘

【10月27日付、琉球新報】防衛省の有識者会議で、辺野古新基地建設の費用対効果について疑問の声が上がった。防衛省の有識者会議で、辺野古新基地建設の費用対効果について疑問の声が上がった。防衛省の有識者会議で、辺野古新基地建設の費用対効果について疑問の声が上がった。

昨年2021年1/25の沖縄地元紙は一面トップに衝撃的な見出しを掲げた。「辺野古に陸自離島部隊 米海兵隊と極秘合意 水陸起動団 文民統制逸脱か」(琉球新報)、「辺野古 陸自常駐 海兵隊と極秘合意 日米一体化中核拠点に」(沖縄タイムス)。米海兵隊用と説明されてきた辺野古新基地が、実際には日米が共同使用し一体化を進める中核拠点とすることで、2015年の段階で極秘に合意されていたというのだ。当時の菅政権は合意の存在を否定したが、米オバマ政権元高官が取材に、陸自常駐案が「日米両政府の共通理解」との認識を示している(1/29 沖縄タイムス)。その後、昨年末に琉球列島の戦場化を前提にした日米共同作戦計画の存在が暴露され、辺野古新基地の日米共同使用はリアリティを増した。そして本年5/15の琉球新報は、「米軍弾薬庫 自衛隊使用か 沖縄で案浮上、一体化加速」の記事を掲載した。沖縄県内にある米軍弾薬庫について、自衛隊が共同使用する案が日米両政府内に浮上している、という。

沖縄の米軍弾薬庫は嘉手納と辺野古の2カ所。6/1 琉球新報によれば辺野古弾薬庫の整備費用として約597億円が費やされ、本年2月に弾薬庫4棟が新たに完成した。また5/31 参院予算委員会の質疑で野党委員が、米海兵隊文書に記載された弾薬庫の更なる増設計画の有無について問い質したが防衛省整備計画局長は明言を避けた。埋立て工事と並行して進む辺野古弾薬庫の拡充整備が、日米共同使用、さらには琉球列島の戦場化を前提にした共同作戦計画と関連していることに注目する必要がある。

辺野古闘争の勝利こそが闘いの展望を切り開く

7/31の琉球新報が「平和に関する全国世論調査」(7/30実施)結果を伝えている。それによると、日本は今戦争する可能性が「ある」と答えた人が48%、2年で16%増加している。調査対象を沖縄に限定すれば、さらに戦争への危機感が強まっていることが示されるだろう。ウクライナが戦場化されて砲弾とミサイルが飛び交い、半年経過しても停戦の

米軍弾薬庫 自衛隊使用か 沖縄で案浮上、一体化加速

【沖縄県内】米軍弾薬庫と自衛隊の共同使用案が浮上している。米軍弾薬庫は嘉手納と辺野古の2カ所。6/1 琉球新報によれば辺野古弾薬庫の整備費用として約597億円が費やされ、本年2月に弾薬庫4棟が新たに完成した。また5/31 参院予算委員会の質疑で野党委員が、米海兵隊文書に記載された弾薬庫の更なる増設計画の有無について問い質したが防衛省整備計画局長は明言を避けた。埋立て工事と並行して進む辺野古弾薬庫の拡充整備が、日米共同使用、さらには琉球列島の戦場化を前提にした共同作戦計画と関連していることに注目する必要がある。

動きもない。他方で、「台湾有事」が連日マスコミで報じられ、日米共同の「島嶼奪還作戦」など琉球列島の戦場化を想定した激しい軍事訓練が日常化している。今年の防衛白書には「与那国と台湾」の項目が初めて掲載された。住民の避難計画も具体化されないまま、島々は陸自ミサイル部隊で要塞化され、米軍の中距離核巡航ミサイルの配備さえも日程に上ろうとしている。

すでに沖縄では、昨年末の日米共同作戦計画

の報道を契機として「沖縄戦の再現を許さない」「琉球列島の戦場化を阻止しよう」と「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」が立ち上げられた。沖縄の抵抗を封じ込めようという意図を持った土地調査規制法（9/20に全面施行）の廃止をめざす取り組みも始まっている。辺野古新基地は日米共同作戦計画の中核拠点であり、この中核拠点の計画を断念させること、辺野古闘争の勝利こそが、琉球弧の軍事要塞化一軍事植民地化を粉砕する闘いの展望を切り開く。

辺野古を巡る裁判闘争の現状は・・・

A 2018年8月31日の埋立て承認「撤回」を巡る争訟

- ① 県による抗告訴訟→2021年12月15日高裁敗訴→最高裁上告中
- ② 辺野古住民15人による抗告訴訟→2022年4月26日地裁敗訴→高裁控訴中

B 2021年11月25日の設計変更申請「不承認」を巡る争訟

- ③ 2022年8月12日違法な国の関与（国交相の「不承認」取消し裁決）取消し訴訟（福岡高裁那覇支部）
- ④ 2022年8月23日辺野古住民20人による抗告訴訟（那覇地裁）
- ⑤ 2022年8月24日違法な国の関与（国交相の「不承認」是正指示）取消し訴訟（福岡高裁那覇支部）
- ⑥ 2022年9月30日県による抗告訴訟（那覇地裁）

沖縄防衛局長・小野功雄 殿

資料

2022.10.16 へり基地反対協議会
(共同代表・豊島晃司／仲村善幸／東恩納琢磨)

辺野古新基地建設の断念と工事の中止を求める要請

去る9月11日に投開票された沖縄県知事選は、玉城デニー知事が「ゼロ打ち」圧勝、自公政権が推した佐喜眞淳候補に約6万5千票差をつけて再選されました。佐喜眞候補が新基地容認を明言し、辺野古新基地建設の是非が最大の争点となった今回の選挙で、沖縄県民は改めて「新基地反対」の明確な民意を示したのです。

1997年12月の名護市民投票で私たち名護市民が「新基地NO」の意思を発信して以降、沖縄県民は、国政選挙から地方選挙に至るまで各種選挙において新基地反対の候補者を当選させ、2019年には県民投票で、投票者の72%が「新基地反対」の意思を示したにもかかわらず、政府は一貫して県民の意思を踏みにじり、工事を強行してきました。これは民主主義国家にあるまじき暴挙と言わざるを得ません。

また、翁長前知事の遺志による沖縄県の埋め立て承認撤回や、玉城現知事による設計変更不承認を、私人の権利救済のための行政不服審査法を違法に用いて取り消し、沖縄県の指導も一切受け付けない政府のやり方は、地方自治を真っ向から踏みにじるものです。

私たちの度重なる要請に対し、貴局は「普天間基地の危険性除去のためには辺野古移設が唯一の解決策」と壊れたテープレコーダーのように繰り返していますが、日米両政府が「5～7年以内の普天間基地返還」を約束してから既に26年余が経っており、さらに大浦湾の埋め立て予定海域で見つかった海底の軟弱地盤のため、工事はほぼ不可能と断言する専門家もあり、たとえ強行しても、この先どのくらいかかるか目途が立たない状況にあります。「辺野古唯一」に固執することは、普天間基地の危険性をいつまでも放置することではありません。

辺野古・大浦湾海域は地球上でも稀な生物多様性を誇る「宝の海」であり、先般、世界中で守るべき海の1つとして「ホープスポット(希望の海)」に選定されました。生物多様性条約の批准国であり、この海を率先して守る義務を負う日本政府が、それを破壊するために、コロナ禍に喘ぐ国民の血税を浪費することは言語道断であり、けっして許されません。以上のことから、改めて沖縄県民と県の「新基地反対」の意思が示された今回の知事選結果を踏まえ、地方自治と生物多様性を尊重する民主主義国家としての日本の誇りを、国民、また国際社会に対して示すために、辺野古新基地建設の断念と、今行われている工事の中止を強く求めます。

「終わらない沖縄の戦後～女性・子どもの視点から」 宮城さん講演

悪天候の中、50人が参加

6/3（金）の夜、横浜市技能文化会館にて「ノーモア！沖縄戦 許すな！琉球弧の戦場化 6.4 横浜講演会」が開かれた。主催は「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」（以下、結ぶ会）。当日は朝から雷を伴う激しい雨が降ったり止んだりのあいにくの天候。幸いにも夕方には雨が上がり、コロナで入場制限された会場がほぼ満席となる50人が参加した。

高梨晃嘉・結ぶ会代表世話人の主催者挨拶に続いて、本年1月末に結成された「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」共同代表で女性史研究者の宮城晴美さんが、「終わらない沖縄の戦後～女性・子どもの視点から」のテーマで、沖縄からオンラインで講演した。

現在に続く沖縄戦後の“新たな戦争”

宮城さんは、パワー・ポイントを駆使しながら、「日本軍の敗残兵の襲撃を防ぐための鉄条網に囲まれた収容所から始まった」沖縄の戦後“について語り出した。収容所には沖縄戦で家族も住居も失った約1000人の子どもたちが収容され、着る服もなく、高カロリー食を与えられても下痢をする子が多かったこと、米兵は負傷者を看護する一方で、別の場所では女性へのレイプを繰り返し、沖縄戦の戦闘が終わっても、女性たちにとっては、”新たな戦争“が始まっていたこと、1950年の朝鮮戦争勃発で設置された「歓楽街」が米兵であふれ、兵士同士の乱闘やレイプ事件も増えたこと、1950年代半ばは子どもへのレイプ事件が相次いだこと、1960年代はベトナム戦争勃発後、帰還兵による性犯罪が凶悪化したこと、「裁判権放棄の密約」「米軍優位の日米地位協定」で米兵の暴力が裁かれることなく「守られている」現実が「復帰」50年の現在まで続いていることを、具体的な統計資料や当時の報道を紹介しながら解説した。そして、「もはや沖縄は戦前」と言えるほどに軍事要塞化が進む現状を指摘し、「二度と悲劇は繰り返させない」との思いから「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」を本年1月に結成したことを報告、最後に「琉球弧を戦場化させない取り組みをみなさんと共に進めたい」と締め括った。講演後に若干の質疑を受け、オンライン講演を終了した。

「非常にショッキング」(参加者の感想)

60分の限られた時間の中で、1945年の日本の敗戦、米軍占領から現在までの77年間の「終わらない沖縄の戦後」を、女性と子どもの視点から赤裸々に描き出した宮城さんのオンライン講演は、参加者に強烈なインパクトを与えた。参加者からは「女性の被害は女性からでしか問題化されないことが分かりました」「非常にショッ



キングな内容でした」「重く、聴くのも苦しくなるお話でしたが、今を生きる私たちみんなが、知らなければならない歴史的事実だと思いました」などの感想が寄せられた。

「再び戦場にしてはならない」

続いて結ぶ会・事務局から辺野古現地の状況を中心にパワー・ポイント資料を映し出しながら報告。連帯の挨拶に登壇した「沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック」の青木初子さんは、「沖縄の現状を聞くたびに、ふっふつと怒りが沸いてくる」と語り、「沖縄の意思を問うことなく、沖縄戦で戦場化され、米軍占領下に差し出され、いままた『台湾有事』を口実に、戦争の最前線に立たされようとしている。教科書からも沖縄の歴史が改ざんされ、子どもたちの歴史認識が歪められてしまう現実がある。沖縄の反基地運動を監視対象にしようという土地調査規制法も9月に全面施行される」「植民地主義も天皇制も清算されず、沖縄の自己決定権が踏みにじられている！」と問題提起。「みなさんと『戦争はダメだ！』『沖縄を再びイクサバ（戦場）にしてはならない！』という声を、諦めることなく上げ続けたい」と訴えた。

最後に仲宗根保・結ぶ会代表世話人から閉会挨拶。会場で協力いただいた結ぶ会への活動カンパと辺野古現地への闘争カンパは、合計約3万円が寄せられた。

